当会の活動ご紹介

2015年3月現在

NPO Asian Green Forest Network

特定非営利活動法人アジア植林友好協会

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

No Forest No Future

はじめに・・・

1997年から98年にかけて、エルニーニョ現象による大森林火災がインドネシア・カリマンタン（ボルネオ）島を襲いました。焼失した面積はおよそ570万ha。これは四国と九州を合わせた面積に相当します。世界ではカリマンタン島とスマトラ島にしか生息していない、熱帯雨林の植生を育んできたオランウータンも、住み処である森を失い、焼け出されてしまいました。

一方で、地球温暖化の問題も深刻化しています。
森林は、地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の貯蔵庫です。
特に熱帯雨林は「地球の肺」とも言われ、酸素の供給と共に大変重要な役割を果たしています。
熱帯雨林の減少により日本の気候異変にもゲリラ豪雨など大きな影響を与えています。

私たちは、1999年よりカリマンタン島で、また、2007年からは森林率が22%余りと低いバリ島で、水源涵養林の造成プロジェクトに協力し、植林活動に取り組んでいます。
「みどり豊かな地球を次世代に」残し、人類の**「持続可能な地球社会づくり」**に私たちと共に行動を！

虫も鳥もいない世界・何もしなければ、森は戻らない！

概要

名　称　　特定非営利活動法人アジア植林友好協会
　　NPO　Asian　Green　Forest　Network
法人認証番号　　14生都協市特第692号
主たる事業所　　〒188-0011　東京都西東京市田無町3-5-4
　　TEL: 042－451－6120　FAX042－465－7241
設立年月日　　平成14年9月10日
事業内容　　アジア地域で植林活動を行う事でアジアの熱帯雨林の再生に寄与すること、また、植林活動を通じてアジア地域の人々の民生向上（自立支援）に協力していくことを目的とする。
(1)環境の保全を図る活動
(2)国際協力の活動
(3)熱帯雨林再生のための植林の必要性の普及活動
(4)インドネシアとその他のアジア地域での植林に関する事業
(5)植林に関するセミナー、講演会等の開催
(6)オランウータンのリハビリセンターへの寄付
(7)村落基盤整備事業
(8)農民の収入向上事業
(9)個人または団体からの寄付金の募集および管理
(10)関係諸団体との連携
(11)その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
代表理事　　宮﨑　林司

理念

私たち、アジア植林友好協会は、日本人が一番利用した**アジア地域の熱帯雨林の再生を植林活動を通じて貢献**することを目的として、平成14年9月10日に設立いたしました。

現在、地球上の森林が「違法伐採」や「焼畑による山火事」「パームオイルプランテーションの開発」などにより現在も継続して失われています。
中でも、南米アマゾンとともに 「地球の肺」と呼ばれるインドネシア・カリマンタン島の被害は重大で、国際環境保護団体WWFでもインドネシアの森林は世界で一番貴重で、危機的な森林とされています。
地球の酸素の約50%を供給し、地球上の生物種の約50%が生息するなど熱帯雨林は特別な森です。
1997～98年にかけてカリマンタン島で起こった大火災だけでも570万haという広大な熱帯雨林が焼失してしまいました。

ここには絶滅危惧種である「森の人」オランウータンが住んでおり、この火災で多くの犠牲を出しました。
さらに、本来CO2を吸収する働きのある森林が燃えたことで、逆に大量のCO2が放出されることになってしまいました。
これは、地球の温暖化や気候異変などの地球規模の環境問題へとつながっていく大きな問題です。
誰でもが参加できる修復「植林」を通して、地球規模の課題を少しでも改善したいという思いから「アジア植林友好協会」は
～森のない地球に人類の未来は無い～との想いで設立されました。
未来を担う子どもたちへ美しい地球を残すために、皆さまと協力して、熱帯雨林を保護・再生できることを願っております。

ロゴマークに込めた想い

緑が増えて鳥が飛び交う緑豊かな地球の再生を願って！

子供たちの世代に美しい地球を残すために

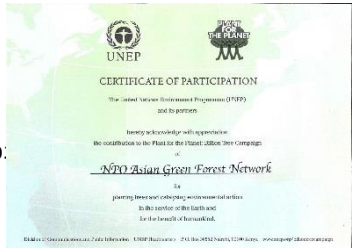
特定非営利活動法人アジア植林友好協会

代表理事　宮﨑林司

沿革

インドネシア・東カリマンタン州およびバリクパパン市に苗木の寄付をはじめたのが当会設立のきっかけです。始めは個人レベルでの寄付活動を続けていましたが、それでは限界があると感じ、より幅広い市民の方にも参加を募るために2002年にNPO法人格を取得し、アジア植林友好協会が設立されました。法人格取得以前の活動を含めた沿革は下記のとおりとなります。

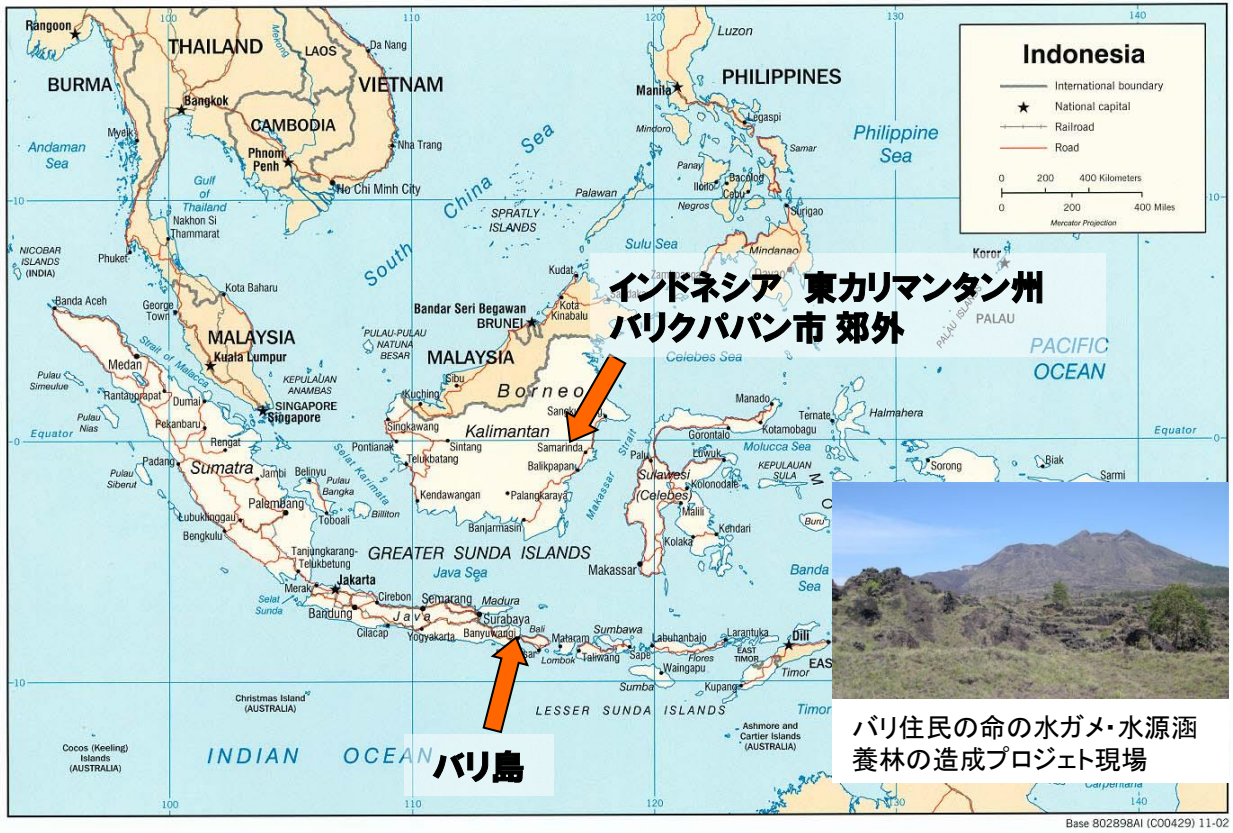
1999年　6月　YBBB財団を通じて東カリマンタン州およびバリクパパン市にメランティとチークの苗木を合計10,000本寄付　（第1回寄付植林）
2000年　6月　クタイ　カルタネガラ県に苗木20,000本寄付　パンタイ アスハン財団（青少年職業訓練支援）に苗木1,000本寄付
2000年　8月　第2回寄付植林を実施（5,000本）2000年12月　第3回寄付植林を実施（5,000本）
2001年　6月　第4回寄付植林を実施（10,000本）
2001年　6月　東カリマンタン州植林体験ツアーを開始
2002年　3月　バリクパパン市内孤児院の土地に将来の財源用としてのチークを寄付（1ha＝833本）
2002年　3月　クタイ　カルタネガラ県にメランティの苗木20,000本寄付
2002年　9月　NPO法人格を取得　**特定非営利活動法人アジア植林友好協会**が正式に発足
2003年10月　スンガイワイン水源涵養林周辺のコミュニティ林として20000㎡（ツアー参加の皆さんと寄附植林1,666本）
2003年12月　**「生命の森づくり」プロジェクトをスタート**
2004年　5月　岩手県湯田町にて「共生の森づくり」ツアーを実施
2005年　1月　地球緑化推進フォーラム　開催
2005年　5月　**ポール・ウィンター チャリティコンサート「地球の鼓動を聞くタベ」 開催**
2005年11月　国際ソロプチミストより環境貢献賞を受賞
2006年　3月　群馬県労働福祉協議会との共同植林ツアーを実施
2006年　4月　雑誌「Men's EX」とのチャリティオークション開催
2006年　8月　東京ヴェルディ1969とのチャリティエコオークション開催
2007年　2月　NECフィールディングと「フィールディングの森」づくりスタート　従業員を対象とした植林ツアーを同時開催以後継続
2007年　5月　インドネシア・バリ島水源涵養林保全植林プロジェクト～**平和の森づくり～がスタート**
2007年10月　**IAAF Green Project**（世界陸上大阪大会2007）受託植林実施～クブンラヤ　サマリンダ公園にて～
2008年　7月　みずほ銀行のデビッドカード使用件数に合わせて植林寄付プロジェクトがスタート。
2009年　3月　バリ島植林1万本を達成したのを機会に、州政府、県政府関係者を招いて記念式典を開催。
2009年11月　第1回バリ植林祭を開催（社）国土緑化推進機構の助成あり）400名以上が参加3,000本の植林を実施。合計12，000本
2010年12月　第2回バリ植林祭を開催（財）国土緑化推進機構の助成あり）720名が参加、同時に日本スティーベル㈱の森づくり5年間5000
2011年　2月　第5回NECフィールディングの森づくり植林体験ツアー開催
2011年　7月　インドネシアフェスティバル2011に出展参加
2011年　7月　国土緑化推進機構の「緑の募金公募事業にバリの植林が承認されました。
2011年　8月　東カリマンタンオランウータンのリハビリセンター訪問と植林体験ツアー実施
2011年　9月　国際ワークキャンプを主催するNICEと第一回バリ島植林ワークキャンプを実施
2011年10月　地球愛祭りin東京に出展参加
2011年12月　**第3回バリ植林祭**とバリ植林体験ツアーを実施：植林祭の今年の参加者が1000名を超：式典にバンリ県知事ほか参加・在日インドネシア大使館よりも支援
2011年12月　西東京市社会福祉協議会10周年記念事業で表彰されました
2012年　1月　**国連環境計画（UNEP）より10億本植樹キャンペーンへの参加感謝状**
2012年　6月　エコライフフェアー2012に出展
2012年12月　**第4回バリ植林祭**と植林体験ツアーを実施　植林祭の参加者が1000名を超えました。式典にバンリ県知事ほか参加・在日インドネシア大使館よりも支援
2013年12月　第5回バリ植林祭＆体験ツアー実施
2014年12月　国際協力60周年事業としてインドネシアバリ島第6回バリ植林祭実施＆東カリマンタン州植林体験ツアー実施



活動地域

これ以上の熱帯雨林の破壊を防ぎぐため「残された森の保全」と「荒廃した草原の再生」のための植林を始めました。主な活動地域は、インドネシアの 東カリマンタン州バリクパパン市郊外およびバリ島の2箇所です。

世界で一番貴重で危機的な森林（WWF)インドネシアの熱帯雨林は、地球全体の気候変動に大きな影響を与えます。豊かな熱帯雨林が伐採利用されたり、土地がプランテーションに転用されて消失してしまいました。人類が生存し続けるために必要不可欠な熱帯雨林の再生を目指しています～緑豊かな地球環境を未来に～

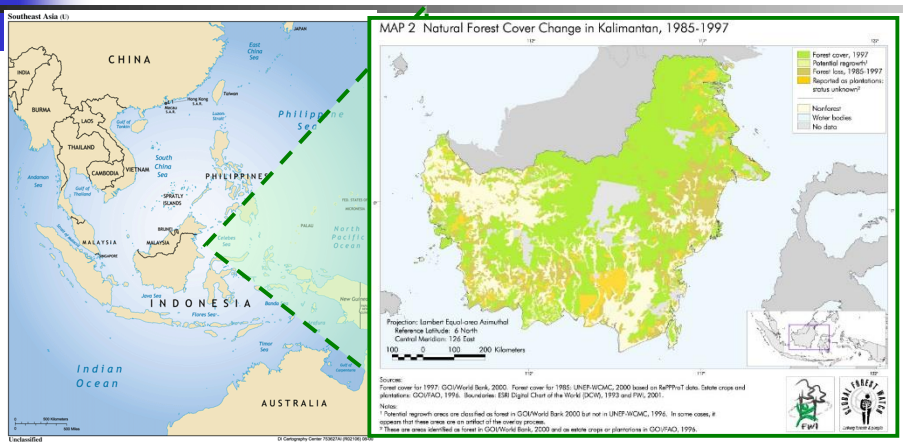


バリ住民の命の水ガメ・水源涵養林の造成プロジェト現場

森林火災

草原化した土地・何もしなければ森に戻らない

インドネシアの森林は世界で最も危機的な状態



【最も貴重かつ危機にさらされた森林を有する国トップ40】

1 インドネシア	16 アンゴラ	31 メキシコ
2 ナイジェリア	17 エクアドル	32 グアテマラ
3 コンゴ共和国	18 タンザニア	33 タイ
4 リベリア	19 ガーナ	34 ウクライナ
5 カメルーン	20 ルワンダ	35 ロシア
6 マダガスカル	21 マラウイ	36 ガイアナ
7 ソマリア	22 ケニア	37 コンゴ民主共和国
8 赤道ギニア	23 フィリピン	38 ホンジュラス
9 ミャンマー	24 パプアニューギニア	39 ベナン
10 シエラレオネ	25 カンボジア	40 中央アフリカ
11 ウガンダ	26 ザンビア	
12 コートジボワール	27 ネパール	
13 ハイチ	28 ベトナム	
14 中国	29 ガボン	
15 インド	30 パキスタン	

出典：GFTN（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ ﾌｫﾚｽﾄ＆ﾄﾚｰﾄﾞ ﾈｯﾄﾜｰｸ）

現在世界的に減少を続ける森林。とりわけインドネシアは世界で有数の森林大国であり、生物多様性に富む熱帯林を有していましたが、違法伐採や火災ににより急速に減少しています。

特にインドネシアのカリマンタン島では森林率が1950年代に95%もありましたが、現在40%まで減少しています。

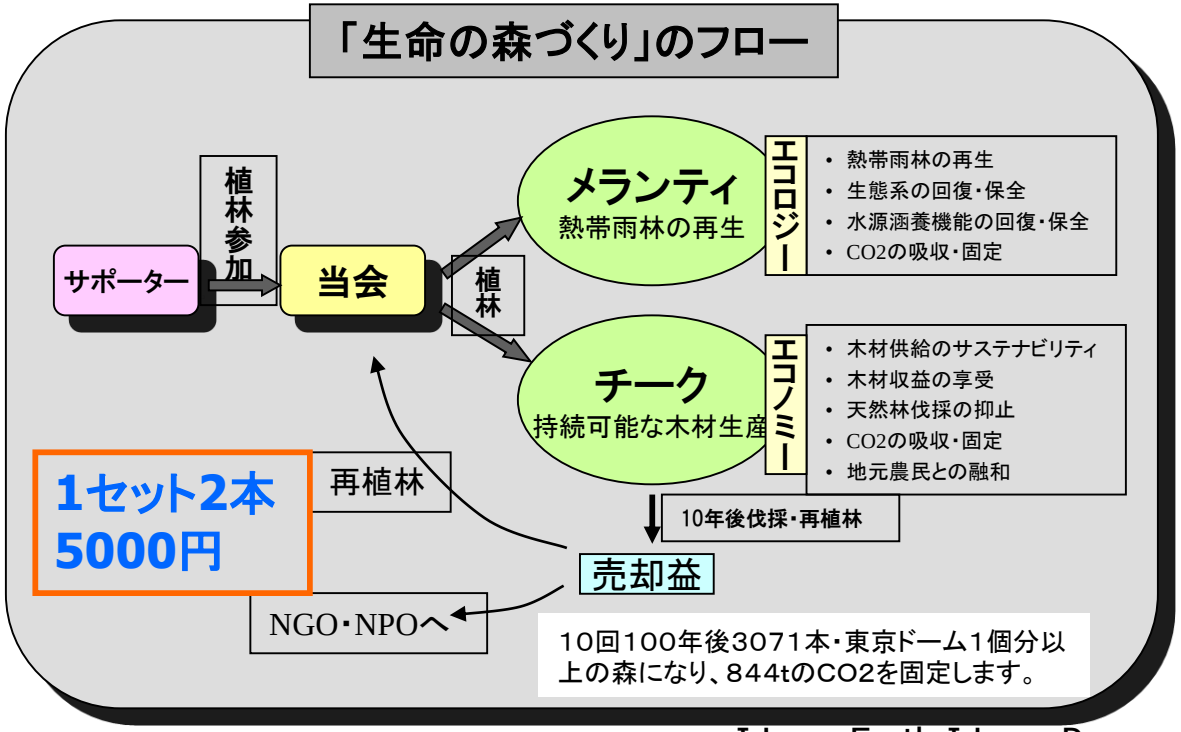
この状況下、企業の持続可能な環境貢献活動として植林活動へご参加いただいております。

企業と環境の共生を目指す取り組みの受託事業を行っています。

プロジェクト① 「生命の森づくり」サポーター

インドネシア東カリマンタン州の森にメランティや果実の樹など1本と、チーク1本の計2本を1セットで植林し、市民の皆様や法人にオーナーになっていただくことで、“目に見える”環境貢献に参加いただこうというプロジェクトです。植林されたチークは、GPSによって1本1本の緯度・経度を割り出します。オーナーの方には、「CO2オフセット証明書」と「チーク植林木オーナー証書」を発行いたします。

チークは10年後に伐採します。オーナーはその収益金をご指定のNGO・NPOへ寄付するか、再植林に活用するかを選択することができます。地元民の生計安定にも不可欠なプロジェクトです。



≪CO2オフセット証明書≫

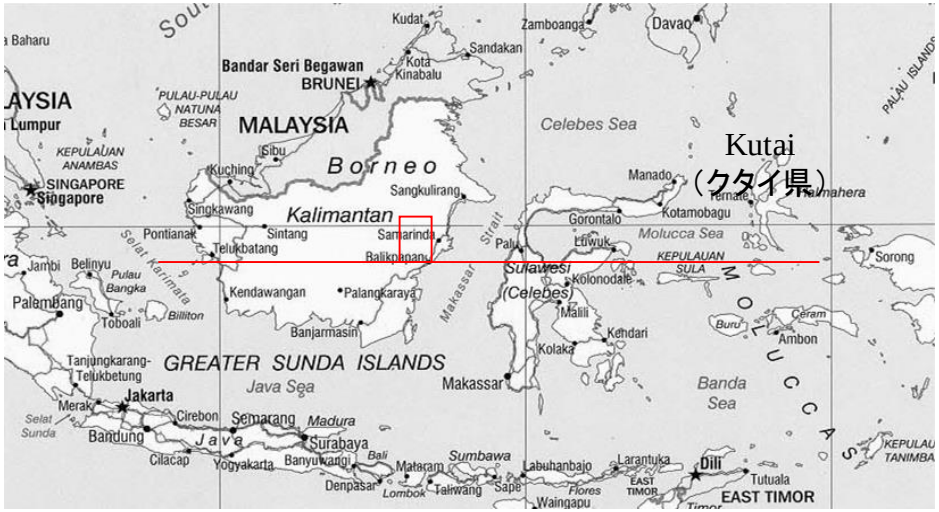
«植林証明書»

寄付先／提携先団体（2008年8月現在）

◆国際環境NGO　FoE JAPAN
◆特定非営利活動法人 ﾎﾞﾙﾈｵ ｵﾗﾝｳｰﾀﾝ ｻﾊﾞｲﾊﾞﾙ ﾌｧｳﾝﾃﾞｰｼｮﾝ 日本
◆地球環境平和財団
◆特定非営利活動法人　NICE
◆特定非営利活動法人　ｴﾊﾞｰﾗｽﾃｨﾝｸﾞ・ﾈｲﾁｬｰ（ELNA）
◆特定非営利活動法人　ICYEジャパン
◆特定非営利活動法人　環境リレーションズ研究所
◆特定非営利活動法人　こどもプロジェクト
◆特定非営利活動法人　ｹﾝﾊﾟ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ・ｺﾐｭﾆﾃｨ協会

プロジェクト② ムラワルマン大学演習林 再生植林
林業公社保護林ブキットバンキライの再生植林

東カリマンタン州国立ムラワルマン大学は、2万ヘクタールにおよぶ演習林を保有しています。しかし、1982−83年および1997−98年の森林火災によって、大部分の熱帯雨林が劣化、消失してしまいました。そこで、2005年より、大学と共同で6,000ヘクタール（およそ1,800万坪）の土地を回復する植林プロジェクトがスタートしました。地場の樹種であるメランティ（フタバガキ科）を中心とする樹種を樹下植林し、かつてあった熱帯雨林の再生を目指します。**《企業向け1000本から受託》**



樹下植林

植林されたメランティ10年目

樹下植林による森林再生

受託植林＝1本1,500円

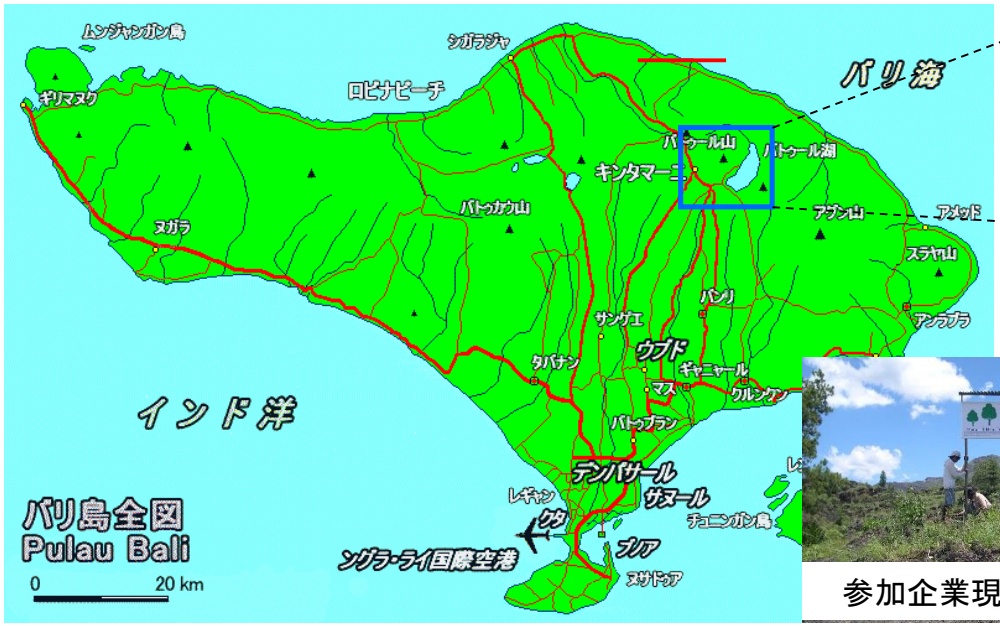
メランティーの樹下植林により再生過程の保護林(5年生） 右写真

プロジェクト③ 世界平和の森づくり(目標200万本)

「神々の島」ともいわれ、リゾート地としても知られるバリ島。しかし現在では森林率が22%にまで低下しました。なかでもバリ島の重要な水源の1つであるバトゥール湖では、度重なる火山の噴火によって湖畔の森林が消失し、水位が低下してしまいました。この事態を危惧してバリ州政府が立ち上げた『2010年緑のバリ』プロジェクトに2007年5月から参加し、バトゥール湖畔ペネロカン地区2,075ha（628万坪＝約200万本）の緑化を目指しています。

1本500円～　企業様1000本～

バリ州　水源涵養林再生プロジェクト



参加企業現地看板

村の人たちと植林

④オランウータンの森づくりプロジェクト

インドネシアのオランウータンサバイバル財団（BOSF）の「サンボジャ　レスタリ」の敷地内の400ヘクタールにオランウータンの食用になる樹種　の植林支援を行っています。敷地内は草原または灌木の2次林となっていて、有用な樹種が生育していません。
天然林から種子を採取して様々な地場の樹種の苗木づくりを行っています。

（※植林の実行は基本的に10月から翌年3月、雨期の期間に実行します。）

個人　2,500円／本：企業様：ご相談

◆オランウータンリハビリセンター訪問と植林参加のための現地訪問ツアー企画随時

体験支援：植林体験ツアー／社員研修ツアー

熱帯雨林の現状をこの目で確かめ、自らの手で木を植える。こうした体験を通じて、皆さんに森林の問題をより深く理解していただくため、年2回のペースでツアーを開催しております。
ツアーには、体験植林をはじめ、オランウータン リハビリセンターの見学や、残された熱帯雨林の散策などさまざまなプログラムを盛り込んでいます。また、社員研修として環境スタディツアーなどのアレンジも致します。

2009年～バリ植林祭

ブキットバンキライのつり橋
（カリマンタン）

オランウータン　リハビリセンター（カリマンタン）

体験植林（カリマンタン）

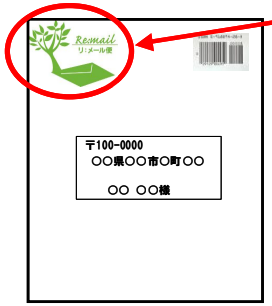
企業・学校法人・団体の皆様へ

リ：メール便 プロジェクト

Re：Mail… - For The Earth -

～ わたしにできること　地球にできること ～

Re:mail リ：メール便 プロジェクトは、貴社の配送物（DM類等）で地球に緑を返信していく、という意味で名づけられました。



封筒へのロゴ印刷

開封率UPのアイキャッチ

ご案内文書追加封入

1000通毎に1本の植林を実行

参加者のメリット

コストを下げて、新たな負担なく地球植林に貢献と評判！

①地球に感謝の植林促進貢献できる
②発送コストを節減できる
③現在の消費者心理は「環境によい物を選ぶ」
⇒リ：メール便活用でイメージ＆開封率アップ

地球のための植林

ご参加・ご支援方法

※植林は継続することが一番大切だと考えています。

500円で世界平和の森づくりに参加

バリ島に1本植林ができ、毎年約10kgのCO2が吸収されます。

1500円で熱帯雨林再生ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄに参加

カリマンタン島の現地大学との共同プロジェクトで、熱帯雨林再生のために1本植林ができます。

2500円オランウータンの森ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄに参加　オランウータンの食用になる樹種を中心に植林

5000円で生命森づくりに参加

カリマンタン島にチークの立木権確保とメランティの植林寄付ができ、10年間で約1.41tのCO2が吸収されます。

智育の森づくりに1口5000円で参加

将来収益の期待できる『チーク』の植林地を確保して、バリックパパン市にある孤児院の持続的な運営支援のための「智育の森づくり」に参加

当会の支援企業の商品・サービスを購入する

当会の植林支援企業の商品・サービスを利用することで間接的に植林活動を支援できます。

★経費節減できたDM1通1円を植林に！

地球に感謝の「リ・メール便」サービス利用

DMを発送するコストを下げその一部で植林活動を支援できま　す。家日日世削減と環境貢献を同時に実行できます。

社員植林体験研修ツアーで参加

植林体験ができる社員研修ツアーをアレンジ致します。

毎月1000円の継続支援会員になって活動を支援する

個人・法人会員になって会をサポート

個人正会員・法人正会員とそれぞれ賛助会員あります。

中古本・DVDの収集

Amazonで転売し収入を植林活動に参加する

Paypalで様々な活動支援に参加

世界平和の森づくり・生命の森づくり・参加支援などがPaypalを通じて参加いただけます。（HP参照）

これまでの企業の植林参加事例(一部)

①

株式会社
みずほ銀行

＜みずほ＞のキャッシュカードによるお買い物で、植林・環境保護活動を支援していただいております。

デビットカードのご利用１件ごとに、みずほ銀行が１円の植林費用を積み立てることで、カードの利用促進。利用者にも分りやすい環境活動

環境活動 ＰＲ | 製品販売 | 社員 環境学習 | ＣＯ２ オフセット

②

株式会社ＪＡＣ
リクルートメント

・転職先での発展を願い、転職１名様につき１本　の植林。

・英国及びアジア５カ国のグループ会社も参加。

環境活動 ＰＲ | 製品販売 | 社員 環境学習 | ＣＯ２ オフセット

これまでの企業の植林参加事例(一部)

③

株式会社ワコールホールディングス

Webページからあなたの歩数（アルキ）を送信するだけで、環境貢献になる企画。全体で集まった歩数が日本からバリ島までの１万キロに達するごとに100本を植林寄付。

・顧客が気軽に参加できる環境貢献活動。

・「スリムアップパンツ」（製品名）を顧客が自発的に紹介　ビジネスと社会貢献の両立

環境活動PR　製品販売　社員環境学習　CO2オフセット

④

株式会社KPR

韓国の男優、歌手である「リュウシウォン」さんのオフィシャルグッズの販売収益の一部で植林支援

環境活動PR　製品販売　社員環境学習　CO2オフセット

EARTH DAY TOKYO 2007：イベントのＣＯ２吸収

Earth Day Tokyo 2007

・アースデイエナジーアクションとして植林によるＣＯ２オフセットを導入
　イベント開催時に排出されたＣＯ２約12000ｋｇを植林によりオフセット。

アースデイ東京2007 > エナジーアクション

エナジーアクション　排出されたCO2は熱帯雨林で吸収！

会場で使用するエネルギーを100%自然エネルギーに移行した一方で、気になるのは代々木公園会場に来るまでに排出されるCO2量。
そこで、アースデイ東京では、イベントに参加するNPO、NGOなどの出展者が、往復の移動によって排出するCO2約12,000kg(2006年実績)を、インドネシアの熱帯雨林を育てるアクションによって吸収CO2オフセットします！私たちが活動した分、森を増やしてバランスをとる。CO2を増やさないための新しいイベントのカタチを提案します。未来型イベントはこうでなくちゃ！

環境活動ＰＲ　製品販売　社員環境学習　ＣＯ２オフセット

・排出した分、森を増やすという考えを来場者へ広め、話題を集めた。

・他のイベントとの差別化

植林場所	ﾁｰｸ：草原地帯　　ﾒﾗﾝﾃｨ：二次林
樹種	チーク及びメランティ
本数	10本×２
植林の種類	環境及び産業植林（Ｗエコシステム）
費用負担者	EARTH DAY TOKYO 2007事務局

過去の企業の導入事例

わたしたちは、業種・業態を問わず、さまざまな法人とのタイアップ植林をを推進しています。

株式会社 ソニーマガジンズ

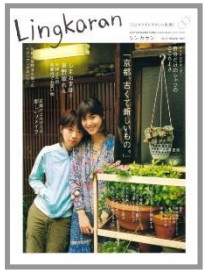
≪顧客満足の向上≫

スローライフ雑誌「リンカラン」のコンセプトに合わせ、記事と連動した環境コミュニケーションに活用。

・毎年継続でエリアを拡大中
・毎年夏に読者向けエコツアー
・10年後売却益はNPOへ寄付予定

≪効果≫

読者を「読む」人から「行動する」人へ導き、参加できる雑誌へ



『リンカランの森』

SONY 株式会社 ソニー

≪CSRの一環として≫

「ソニーエコプラザ」の来場者４万人突破を記念し、100本の木を植える活動を実行

・温暖化に関するメッセージを計100名の来場者に書いてもらい、その方に代わってソニーが「リンカランの森」に植林

≪効果≫

キャンペーン活動の付加価値を付け、周辺認知が高まる

ソニーエコプラザ

FIELDING NECフィールディング株式会社

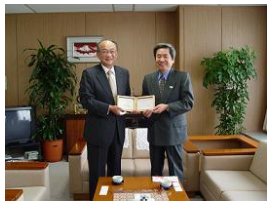
≪エコイベントとして≫

東京ヴェルディ1969のスポンサーとして、味の素スタジアムで「エコマッチ」を開催

・記念グッズの売り上げを森づくりに活用
・「フィールディングの森」として、イベントを継続的に開催

≪効果≫

・サッカーファンを巻き込んだイベントとして、有機的に展開
・エコブランドの確立



証明書贈呈の模様

株式会社ヒューネット HUNET

≪同業者との差別化主張≫

屋上緑化や壁面緑化を手がける会社が施主に植林証書をプレゼント

・施工面積に応じて施主に提供
・10年後のチーク売却益は、建物や緑化設備のメンテナンスに充当可

≪効果≫

・他社に無いサービスによる、価格競争の回避
・営業面で競合他社に比べてリード

チーク立木権オーナー証明書

CO2オフセット証明書

株式会社 協和木工所

≪販売促進に≫

創業80年の大手棺メーカーが、エコ棺「グリーンアーク」を開発。売上の一部を植林費用へ

・毎年継続してエリアを拡大
・グリーンアーク専用のホームページにてブランディングを展開

≪効果≫

・環境貢献と商品付加価値向上の相乗効果
・展示会などでの反響大

『グリーンアークの森』

過去の企業の導入事例

株式会社 エルシード

≪エコブランディングと販促≫

分譲マンションの建設および販売業の一環として、インドネシアにて「GLOBAL FORESTS」を展開

- マンションを一室販売するごとに入居者に植林証明書をプレゼント
- 「GLOBAL FORESTS」の模様をホームページにて紹介

≪効果≫

- エコブランディングの確立
- 差別化による販売促進
- 顧客との関係強化

『GLOBAL FORESTS』

新興マタイ株式会社

≪顧客とのコミュニケーションツール≫

太陽光発電システムやエコキュートの販売とリンクした植林活動を展開

- 太陽光発電システムを導入した家庭には、もれなく植林証明書をプレゼント
- 「Newest Forest」として継続的に拡大

≪効果≫

- 同業他社との差別化
- 顧客とのコミュニケーションの強化、共感の獲得

太陽光発電システム

『Newest Forest』

株式会社 ワコーパレット

≪CSRと原料調達≫

木製パレットなど、物流機器を提供する中で木材を使用する企業として植林に参加

- 定期的に「樹林」を購入。
- 今後、購入を継続し、植林面積を拡大していく予定

≪効果≫

- 木材を使用する企業としての社会的責任の実行
- 将来の原材料の確保

木製パレット

ステテコ研究所 ㈱アズコーポレーション

≪CSRとCO2の吸収≫

日本本来の繊維素材の世朝を広めるために新しい感覚のステテコを販売・あわせて環境貢献のために植林に参加

- CSRとして取り組み、現地にステテコの森の看板を設置、継続的な活動をしてHPで情報発信

≪効果≫

- ステテコ製品のイメージアップ
- HPによる告知効果

http://www.steteco.com

株式会社ジーエス・ユアサ・バッテリー

環境性能の良いバッテリー「エコアール」の販売に合わせて植林に取り組むプロジェクトを始めていただきました。
製品作りとあわせて植林活動をする前向きな姿勢が消費者からの高い評価につながっています

≪効果≫

- CO2を相殺する商品として、他社　との差別化

イメージ画像

AGFN入会とロゴの使用について

法人会員は、会員様はWebサイト、印刷物（チラシ・カタログなど）に当協会の　ロゴをご使用いただけます。（当会へ事前にデータ確認をお願いします。）

①法人会員　　：議決権あり　（初年度入会金3万円　年会費6万円）※

②法人賛助会員　：議決権なし　（初年度入会金2万円　年会費3万円）※

◆サポーター会員：HPにメッセージを掲載させていただく会員です。制作費、掲載料として50,000円／年
この企画は株式会社エルテスの協力により制作実行が行われます。

※正会員と賛助会員の違いは総会での議決権の有無です。賛助会員以上でロゴマークの使用をしていただけます。

＜ご入金口座＞

郵便振替　00140－6－575031

口座名称　NPOアジア植林友好協会

りそな銀行　田無支店　普通口座3773320　または

楽天銀行　リズム支店　普通口座7032370

口座名称　トクヒ）アジアショクリンユウコウキョウカイ

特非）アジア植林友好協会

I Love Earth, I Love Peace

当会ロゴマークに込めた想い

緑ゆたかで小鳥たちが一杯の地球づくりを目指しています